

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あさひ)

事業所番号	0690700117		
法人名	十和建設株式会社		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335-5		
自己評価作成日	平成29年 11月10日	開設年月日	平成24年 3月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が一日一日を自分らしく暮らせるように、できることやりたいことは職員と一緒にやっております。珠算検定や掃除や食事作り、藤島地区の4事業所合同でオレンジカフェの開催や地域行事への参加など、役割や、かわりを持っていただける支援を行っております。ウッドデッキでは外気浴やレクリエーション、気分転換やユニット間の交流の場になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差した活動と利用者に寄り添うケアを活動の柱に据えて理念の実現に取り組んでいる。地域住民、子供達、家族等が多数参加する事業所主催の「地域ふれあい交流会」、藤島地区4事業所合同のオレンジカフェ、地域のお祭り等を通して交流の輪を広げ、馴染みの関係を築くとともに、日頃から利用者の声に耳を傾け、「できること、やりたいこと」を見つけ出し、生きがいを持って自分らしく暮らせるよう支援している。また行進曲に合わせ、廊下を利用した歩行訓練を行うことで下肢の筋力維持にも努めている。広いウッドデッキでは隣接事業所の利用者や交流しながら外気浴・レクリエーション・お茶会等を楽しんでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成29年12月7日	評価結果決定日	平成 29年 12月 20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目の届くところに掲示してる。また、日頃から地域密着型の職員として、職員一人一人が行事などでも意識して業務に携わっている。	わかりやすい言葉で表現された理念を目につく場所に掲示し、職員が意味を掘り下げ、質問し合うことで意識を高め、振り返りを行いながら、利用者の「できること・やりたいこと」を見つけ出し、利用者が生きがいを持って「自分らしく暮らせるよう支援します」という理念の実現に取り組んでいる。読書が好きな利用者には本の提供、また、珠算検定試験の挑戦への支援等生きがいのための支援にも努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流会等を実施している。その中でも、入居者様にも役割を持っていただき、地域の中に溶け込めるように支援している。	町内会に加入し、地域に根差した活動に積極的に取り組んでいる。地域のお祭り、花壇の花植え、事業所主催の「地域ふれあい交流会」、藤島地区4事業所合同のオレンジカフェ等を通じて交流を深め、馴染みの関係づくりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のGHが合同で行うオレンジカフェの開催、参加、庄内GH協の交流会などに参加している。また、地域、施設、ご家族様との交流を図れる、地域ふれあい交流会を実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所や施設内の状況などを報告し、委員より様々な意見などをいただきサービスの向上に努めている。	市職員、介護相談員、民生委員、老人クラブ、婦人会、家族等が参加し、併設事業所と合同で2ヶ月に1回開催されている。事業所から運営状況・ヒヤリハット・研修成果等について報告され、避難訓練・感染症対策・事故防止等について意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議での相談や、その都度、連絡を密にとり協力関係を築いている。</p>	<p>市職員、介護相談員が運営推進会議に出席している。定期的に来訪する介護相談員が利用者と懇談し、意見やアドバイスをいただいている。市介護事業所連絡会にも参加し、協力関係を築くよう努めている。個別の問題については窓口と連携しながら解決に向け取り組んでいる。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>入居時に方針を説明し、ご家族様、本人に同意を得ている。重度化した場合も本人、ご家族様、医療機関と連携をはかりながら支援している。また、研修なども取り入れ、職員間で話し合う機会を設けている。</p>	<p>内部・外部研修会を通して身体拘束禁止を職員に徹底しており、職員は禁止の対象となる具体的な行為や弊害について正しく理解している。日中は施錠せず、出入口にチャイムや鈴を取り付けたり、離接願望の利用者に対しては見守り・寄り添いで気持ちを落ち着かせるなど、安全を確保するとともに不適切な対応がないよう努めている。事故が発生した場合は事故検討会で対策を検討し職員に周知している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部、内部研修などに参加し、職員会議などで復命書や、報告を行い注意や防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在研修会などに参加できていないため、利用する方がいる場合も対応できるように内部研修などに取り入れていく予定。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分に説明し、不安や疑問がないか確認している。また、後日、疑問などがあればすぐに対応している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置、苦情などがあれば、相談、要望が言える環境を作っている。会議などで職員に伝え運営に反映している。	行事・面会等の際に家族が気軽に話できる環境づくりに努めている。遠方の家族とはメールでやりとりすることもある。また定期的に介護相談員の来訪があり、利用者との懇談を通して外部に意見を表す機会が設けられている。意見や要望は職員会議で周知し、サービス向上に繋げている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ケース会議、ミーティングや普段の業務の中で意見を聴く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を奨励し手当などを給与に反映している。向上心を持ってもらうために、補助などの情報なども職員へ伝えている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修へ参加している。復命書や会議などで他職員も学習し、毎日のケアに活かしている。	年間研修企画に基づき計画的に研修を実施している。内部研修は職員が2人1組で担当し、外部研修は職制・力量・希望を勘案して派遣している。自己評価シートを活用し、管理者が面談を通して職員の力量を把握し、アドバイスをを行うなどして働きながらのトレーニングを実施している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	鶴岡市介護事業所連絡会、県GH協の庄内ブロックの交換実習、交流会などに積極的に参加している。	県グループホーム連絡協議会、市介護事業所連絡会の研修会・交換実習、藤島地区の合同オレンジカフェ等を通して情報交換・交流に努め、サービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を確認し、不安や疑問を取り除くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用時はもちろん、ご家族様が来荘した時に近状報告を行い、本人やご家族様の要望を取り入れ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、本人、管理者や相談員を含め話し合い、必要時にはほかの機関も利用しその方であった支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に創作物を作ったり、日々の家事などの中で本人ができることを見出している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来荘時や定期的な電話連絡で、近状を報告している。受診の際には情報提供書を作成し、情報共有し、連絡を密にしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中で馴染みの人や場所を忘れず、思い出してもらおうようにしている。また、知人などの方にも面会に来ていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重し、入居者様同士よい関係でいられるように、家事や趣味活動に参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご家族様や相談員と連絡を取ったり、相談を受けている。その都度、すぐに対応できるよう、様々な機関と連携を図っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重するのはもちろん、ご家族様の意見も取り入れている。	家族からは面会・行事の時に聞き取りし、理念に基づき普段から利用者の声に耳を傾け、介護記録に記録しながら利用者の思いや意向の把握に努め、ケース会議で共有している。困難な場合は本人本位に検討している。	利用者のできること、やりたいこと等をアセスメントシートに反映する仕組みを作り、介護計画に活かしていく取り組みを期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様にこれまでの生活の様子などを聞きとり、施設での生活に役立てている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合った、できること、やりたいことなどを行い、日々の生活の中で、心身状態、潜在能力の発見に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の要望を取り入れながら、ケース会議などで、職員間で意見を出し合い問題解決に努めている。	利用者の思いや家族の意見を取り入れ、ケース会議等で意見やアイデアを出し合い、利用者の現状に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリング・評価を繰り返し、計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を申し送りやケース記録への記録で、職員間で共有している。また、ケース会議で介護計画の見直しを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>毎月介護相談員の受け入れを行っている。二か月に一回運営推進会議を実施しており、地域行事の情報収集や参加などしている。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診時の情報提供書の作成により、通院時、往診時の結果などが共有できている。</p>	<p>かかりつけ医を継続し、原則家族が通院介助を行っている。受診の際は日頃の様子、体調、バイタル等を記載した情報提供書で医師に情報提供を行っている。受診結果をケース記録に記載し、変化があった場合は電話で家族に報告し、共有している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>必要に応じかかりつけの医師や看護師に相談し指示を仰ぎ対応している。日誌やケース記録を活用し情報を共有、把握している。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は必要に応じ、病院関係者や協力機関と連携を図っている。また、連絡を密にしている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取りをしない方針や重度化した場合などを十分に説明し、了承いただいている。重度化した場合はご家族様、主治医などに相談し、支援している。</p>	<p>利用開始時にできること・できないこと、看取りは対応しないなどの方針について説明し家族の同意を得ている。重度化した場合は、利用者・家族・主治医・職員で話し合い、情報共有しながらチームで支援に取り組んでいる。利用者の介護度が年々高くなる現状を踏まえ、管理者は重度化対応の一環として職員のスキルアップ研修に取り組む意向である。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署員より、心肺蘇生や緊急時の対応の講習会を実施していただいている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定避難訓練を実施している。夜間や水害時の訓練が少ないため、増やしていく。また、年2回の合同訓練では、地域の方の参加もいただいている。	消防署及び町内会の協力を得て災害訓練を年2回実施している。事業所独自の訓練も毎月実施しており、目標達成計画に掲げた「備蓄品の見直し・必要量の確保」については、災害対策委員会が本社と協議を進めている。	さまざまな事態を想定した避難訓練が行われているが、水害に備えた避難訓練が計画段階にとどまっており、利用者の安全確保のために早期の取り組みを期待したい。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応や声掛けには十分注意を払っている。特に排泄時の対応は気配りを持ち業務に携わっている。	理念に基づき、利用者の人格を尊重し、その人らしい生活を送れるよう支援している。毎年接遇研修会を実施して職員に周知するとともに、職員間で注意し合い、話し合いながら不適切な対応がないよう努めている。また「やってはいけないNG対応」を貼り出し、日頃から職員に注意を促している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、入居者様の希望や意思を尊重するように努めている。また、自己決定できるような声掛けをしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、一人一人が生きがいを持てるようにどのように過ごしたいか、何をしたいか聞き取りや、観察し様子を観察し支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は希望の場所があればご家族様の協力を得ている。他には施設に定期的に美容院より、散髪に来ていただき身なりを整えている。外出時はおしゃれや服装に気を配れるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や下準備、配膳などにも携わっていただき、準備や片づけを行っている。また、希望献立や季節のものを取り入れ献立を作成している。	利用者の希望を取り入れ、職員が献立を作成している。自家菜園の新鮮な食材等を使用して3食ともキッチンで調理しているが、一品ずつ他のユニット分も調理し交換している。利用者と職員は同じ食卓に就き、家庭的な雰囲気の中で会話と食事を楽しんでいる。誕生日には希望の献立とおやつが用意され、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況などを把握し、個々に合った食事量携帯で、提供している。体重の増加がみられた場合は看護師と連携し食事量などを調整している。水分補給も適時での提供、手作りゼリーで確保している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや口腔ケアを促している。自力でできるよう、椅子を調整したり、見守りや支援をしている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄記録からパターンを理解し、誘導を実施している。他にも、仕草や様子を見ながら声掛けし排泄の自立に向けて心配り、支援をしている。	排泄チェック表や表情・仕草などから排泄パターンを把握し、適時声掛け・誘導により排泄を支援している。おむつ使用の利用者も日中はリハパンを着用し、トイレに誘導することで排泄の自立に向けた支援を行っている。また行進曲に合わせ、廊下を利用した歩行訓練を行うことで下肢の筋力維持に努め、排泄の自立に繋げている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況を把握し、下剤使用だけでなく、牛乳、ヨーグルト、果物などを献立に取り入れている。また365歩のマーチに合わせ、歩行訓練を毎日実施し予防に取り組んでいる。便秘の原因の把握、理解に努め医師や看護師と連携している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望を声掛けにより把握し、個々に合わせた入浴ができるように支援している。(時間や回数)	入浴チェック表を活用し、利用者の希望に沿って時間や回数を考慮しながら入浴を支援している。入浴拒否の利用者に対しては声掛け、入浴剤、変わり湯等工夫をしながら対応している。入浴時は利用者職員の本音の会話の時間にもなっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今迄や現在の生活習慣、過ごし方を把握し、日中適度な運動や趣味活動を行い、夜間はゆっくり休んでいただくように支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を確認し、職員間でチェック、誤薬のないように内服するまで確認している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴やできることを支援、見守りしている。行事、レクリエーション、趣味活動などに参加していただいている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事や交流会などに参加。散歩、ドライブ、買い物などで気分転換を図っている。	地域行事への参加、季節のドライブ、近隣の散歩、買物、自家菜園での畑仕事等戸外に出る機会を確保している。広いウッドデッキでは隣接事業所の利用者と交流しながら外気浴・レクリエーション・お茶会等を楽しんでいる。家族の協力を得て、馴染みの場所に出掛けたり外食を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の難しい方はご家族様と一緒に連携しながら支援をしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の協力を得て、電話の取次ぎ、手紙や年賀状の投函など疎遠している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日三回清掃を行い、清潔保持、環境整備をしている。季節に合った装飾やお花を生け、季節感ある環境づくりを心掛けている。	共有空間は毎日複数回掃除が行われ、温度湿度が適切に保たれ、明るく清潔に管理されている。利用者の作品である刺し子、行事の写真、季節の花等が飾られ、季節を感じながら居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングより、外に出れる広いウッドデッキがあり、散歩や花の水やりなど個々に楽しまれている。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には入居者様が不快、混乱を招くような音や光、色などに気を付け、配慮している。季節感を感じられる空間づくりに努めている。	馴染みの家具・家族の写真、加湿器等を持ち込み、好みの飾り付けを行うことで自宅と変わらぬ環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。濡れタオルで乾燥を防ぐ配慮もなされている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台などの棚などに氏名をつけわかりやすくしている。トイレや浴室などにも貼り絵や札を付けている。		